2025 年 8 月 31 日　杉並教会（詩篇 51：16～18、＃196）

悔い改めの実を結ぶ

ダニエル書 9 章 1～9 節

はじめに　～戦後 80 年を心に刻む～

日本の敗戦から 80 年を覚えて、キリ神・TCU の卒業生 10 人と『戦時下の教会を知ろう―新たな戦争を回避するために』、また、元イスラエル軍兵士でイスラエルの戦争に反対を続けるダニー・ネフセタイさんの本『戦争の「被害者」とは誰か』を作りました。教会の図書に加えていただければと思います。

1930 年から 1945 年までの 15 年戦争、アジア太平洋戦争における日本人の死者は 310 万人です。アジア全域の死者は 2000 万人とも言われます。日本は自衛のため、アジアに大東亜共栄圏をつくるためと言いましたが、アジアへの侵略以外の何ものでもありませんでした。政府の総力戦研究所は、アメリカと戦争すれば必ず負けるという結論を出していました。それにもかかわらず、日清・日露戦争に勝利した自信から、軍部は戦争に突き進み、大日本帝国は滅びました。

責任は政府にあります。ですから日本国憲法は前文において「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」と記しました。

教会に戦争を起こした責任があるわけではありません。しかし、天皇を神としてアジアを侵略した戦争を承認したことは、神の前に罪でした。

1941 年に日本のプロテスタント教会は日本基督教団として合同し、戦争に協力することになります。年が明けて 1942 年 1 月 11 日に、日本基督教団の富田統理は、伊勢神宮に参拝します。新しい教団の発足を報告し、その発展を希願しました。日本の教会はバアルに膝をかがめたのです。

私は神学校で、このことが記された資料を読み、衝撃を受けました。数日、そのことが心を離れませんでした。私は戦前から信徒の家庭に生れ育ちましたが、こんなことは知りませんでした。私はここに日本の教会の根本的な問題があると思いました。そして、二度とこのようなことを繰り返さない教会を形成するために牧師として働こう、そのために日本の教会史を学ぼうと心に定めました。

この頃から、ずっと心に留めているダニエル書 9 章から、神の民の歴史認識、神の民の一体性、悔改めの実を結ぶことを考えたいと思います。

１、エレミヤを読む晩年のダニエル

9 章 1～2 節「メディア族のクセルクセスの子ダレイオスが、カルデヤ人の国の王となったその元年、すなわち、その治世の第一年に、私ダニエルは、預言者エレミヤにあった主のことばによって、エルサレムの荒廃の期間が満ちるまでの年数が 70 年であることを、文書によって悟った」

興味深い記述ですね。文書はパピルスでしょうか、羊皮紙でしょうか。もう晩年になっていたダニエルが、エレミヤの預言の書物を手に入れて、「エルサレムの荒廃の期間が満ちるまでの年数が 70 年であること」を知るのです。

ダニエルが 15 歳くらいで捕囚されたとすると、もう 80 歳になっていました。

エレミヤ書 25 章にはバビロン捕囚の原因が記されています。そこには「ほかの神々に従い、それに仕え、それを拝んではならない」という戒めに背いたことが記されています。神を畏れながらバアルを礼拝していました。これは「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」（申命記 6 章 5 節）に背くことでした。

エレミヤ 22 章にもバビロン捕囚の原因が記されています。ここには「公正と正義を行い、かすめ取られている者を、虐げる者の手から救い出せ。寄留者、みなしご、やもめを苦しめたり、いじめたりしてはならない。また、咎なき者の血をここで流してはならない」いう教えに背いていることが記されています。これは「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」（レビ 19 章 18 節）に背くことでした。

神を愛し隣人を愛せよとの教えに背き続けたことへの裁きが、エルサレム陥落とバビロン捕囚でした。ところがエレミヤ書 29 章には、捕囚の民に送った手紙のことが記されています。「まことに、主はこう言われる。『バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる」。

２、　ダニエルの悔い改め

裁きの「七十年が満ちる」、念願かなって「エルサレムに帰れる」。めでたいことです。この間、耐えに耐え、待ちに待った「エルサレムの荒廃が終わる日」は、もうすぐそこに迫っているというのです。「ハレルヤ！」と叫んでよいところです。ところが 3 節以下にはこうあります。

3～5 節「そこで私は、顔を神である主に向けて断食をし、粗布をまとって灰をかぶり、祈りと哀願をもって主を求めた。私は、私の神、主に祈り、告白した。『ああ、私の主、大いなる恐るべき神。あなたを愛し、あなたの命令を守る者には、契約を守って恵みを下さる方。私たちは罪ある者で不義をなし、悪を行って逆らい、あなたの命令と定めから外れました。」

9 節に「あわれみと赦しは、私たちの神、主にあります。」とあるように、ダニエルは、主の「あわれみと赦し」の中で、深い悔改めへと導かれるのでした。

世代的には、ダニエルに責任があるでしょうか？　神に背いたのは彼らの父祖たちでした。彼らはむしろ被害者と言ってもよいでしょう。先祖の罪のために彼らは生涯を棒に振ったと言ってもよい世代です。しかし、彼は先祖たちの罪を自らのものと考えて言います。

ここで私たちは、世代を超えた神の民の一体性を教えられます。そして、神の民は主のあわれみのゆえに、悔い改めに進んでいるのです。

注意して見ると、彼らの悔い改めはくり返しひとつのことに集中しています。

5～6 節「私たちは罪ある者で不義をなし、悪を行って逆らい、あなたの命令と定めから外れました。私たちはまた、あなたのしもべである預言者たちが、御名によって私たちの王たち、首長たち、先祖たち、民衆すべてに語ったことばに、聞き従いませんでした。」

ダニエルは、自分たちの罪の本質を、神のことば、律法に従わなかったこと、と捉えています。そして悔改めています。

私は、子どもの頃、ダニエルの物語を教えられ、これは勇気ある少年たちの強い信仰の物語だと思いました。しかし、バビロン捕囚の意味や背景を考えるとき、また 9 章の祈りを読むことで、別の見方をするようになりました。

ダニエルと 3 人の少年たちが、律法に従って「王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め」たのは、悔い改めの実でした。

ネブカドネツァルがドラの平野に 60 キュビト（27 メートル）の金の像を立て、角笛、竪琴、様々な鳴り物を鳴らして、これを合図に「ひれ伏して拝め」と命じ、従わなければ火の燃える炉に投げ込むと国民儀礼を強要した時、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは言いました。3 章 17 節です。

「もし、そうなれば、私たちが仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ、あなたの手からでも救い出します。しかし、たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拝むこともしません。」

これは 3 人がバビロン州の行政をつかさどるようになった時のことです。

そして、ダニエルが老年になり 3 人の大臣の一人となった頃、律法に従う信仰を口実に訴えられ、獅子の穴に投げ込まれたのでした。

9 章の祈りから私たちが教えられることは、ダニエルが 70 年近い歳月を経てもなお、神の裁きを覚え、悔い改めを忘れなかったということです。

そして、捕囚地におけるダニエルと 3 人仲間たちの長年にわたる勇気ある行動は、単に若いときの信仰の熱心ということだけでなく、神にそむき、その裁きを受けている民の、二度と同じ過ちを犯すまいという自覚よる、悔い改めの実で

あるということです。

３、悔改めの実

　7～9 節「主よ。義はあなたにありますが、顔をおおう恥は私たちにあります。今日あるとおり、それはユダの人々、エルサレムの住民にあり、また、近くであれ、遠くであれ、あなたが追い散らされた先のあらゆる国々にいる、すべてのイスラエルにあります。彼らがあなたの信頼を裏切ったためです。主よ。顔をおおう恥は私たちにあり、私たちの王たち、首長たち、および先祖たちにあります。私たちはあなたに対して罪を犯して来ました。あわれみと赦しは、私たちの神、主にあります。まことに、私たちは神に逆らいました。」

　ホーリネスの群編『その時わたしは―ホーリネス弾圧受難の証―』(1983 年)という本があります。日本同盟基督教団の古川教会の信徒であった森喜郎は、この本を牧師からもらい、随所に赤線を引きながら読み、最後の余白のページにこう記しました。「・・・顧みて戦争中軍部の命に服しい伊勢神宮や天皇（皇居）よう拝等隣保班員にも命じ自分もこれを行えり、基督教徒として恥ずべき事也。我が主是を赦し給ん事を・・・　S 五十九年二月二十五日」

　こうした一信徒の告白を大事にしたいと思います。日本同盟基督教団の教憲前文には 2013 年の改定で「過去の戦争協力と偶像礼拝の罪を悔い改め」という一文が加わりました。この悔改めに基づいて教会形成と宣教にあたるという表明です。

　日本の教会の戦後 80 年を覚えて、ダニエル書 9 章の祈りに学んできました。最後に 17～19 節に記された祈りを、現在と将来の日本と日本の教会のために祈りたいと思います。

ダニエルの祈り

　17～19 節「私たちの神よ。今、あなたのしもべの祈りと願いとを聞き入れ、主ご自身のために、あなたの荒れ果てた聖所に御顔の光を照り輝かせてください。私の神よ。耳を傾けて聞いてください。目を開いて私たちの荒れすさんださまと、あなたの御名がつけられている都をご覧ください。私たちが御前に伏して願いをささげるのは、私たちの正しい行いによるのではなく、あなたの大いなるあわれみによるのです。主よ。聞いてください。主よ。お赦しください。主よ。心に留めて事を行ってください。私の神よ、あなたご自身のために、遅らせないでください。あなたの都と民には、あなたの名がつけられているのですから。」